

2016年度

SOPHIA未来募金実績報告

2014年度よりスタートしたSOPHIA未来募金も2016年度で3年目を迎え、目標を上回る5億円ものご支援を賜りました。

SOPHIA未来募金がスタートしてからこれまでの寄付累計額は総額14億2000万円を越え、皆様からのご支援一つ一つが、本学学生の安心・安全でより充実した学生生活・快適な学習環境の整備を実現しております。

その学習環境を整備する事業のひとつとして、2014年11月より建設工事を進めておりました6号館(通称：ソフィアタワー)が4月1日より供用開始となりました。四谷・紀尾井町周辺の新たなランドマークとして、また本学のグローバル化の拠点として、学生のみならず近隣地域の活性化への貢献も期待されております。

SOPHIA未来プレート募金受付開始

ソフィアタワーの完成を記念し、本年4月1日

より「SOPHIA未来プレート募金」の受付を大教室の「椅子」の背さまからのご支援・ご協力をお願い申し上げます。開始いたしました。 (概に刻まさせていただきます、お名前を永く留めさせていただきます。なお、当募金へ頂戴しましたご寄付は、学部生・大学院生の就学支援を目的とした「SOPHIA未来奨学金(仮称)」のために活用させていただきます。座席数には限りがございますので、

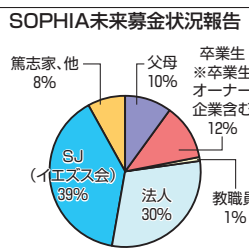


芳名プレート設置イメージ ヤマネ鉄工建設の竹山信夫様



キャンパス内から望む6号館。2号館との連絡通路も設置され利便性も良い

区分	金額の合計
父母	49,015,114
卒業生※卒業生オーナー企業含む	64,297,927
教職員	7,255,471
法人	153,395,998
SJ(イエズス会)	205,257,601
篤志家、他	41,917,166
計	521,139,277 (円)



=SOPHIA未来募金の概要=

- 募金の名称
SOPHIA未来募金
- 募金の目的
 - (1)教育研究支援
 - 教育研究活動の充実(アンコール・ワット西参道修復工事支援、グリーンケア研究所等研究所・研究室・研究者への支援)
 - グローバル・リーダー養成(関連するカリキュラム、研究等の運営支援)
 - キャリア形成支援(関連するカリキュラム、講演等の運営支援)
 - 課外活動・ボランティア活動支援
 - (2)奨学金の新設と拡充
 - 経済的に修学困難な学生(被災学生等)、海外留学を希望する学生・優秀な外国人学生への奨学支援
 - 学部学科研究科等独自の奨学支援
 - グローバルチャレンジ支援(海外留学・語学研修等の奨励)
 - (3)教育研究環境整備支援
 - 四谷をはじめ各キャンパスの整備・再構築
- 募金目標額
2億円(毎年度)
- 募集期間
4月1日～3月31日 毎年度募集いたします。
- 募金方法
従来の方でお受けいたします。
詳細は趣意書およびホームページ(<http://sophia100.jp/>)でお確かめください。

SOPHIA未来プレート募金 概要

寄付金使途：「SOPHIA未来奨学金(仮称)」のため

受付開始：2017年4月1日より

募集対象：個人・卒業生団体

募集金額：1席につき100万円

募集席数：(第1期)個人…前方203席
卒業生団体…後方176席 計379席
※席数が埋まり次第、第1期の募集を終了いたします。

*当募金の使途は「SOPHIA未来奨学金(仮称)」のため、通常の「SOPHIA未来募金」とは別に集計いたします。

*専用の払込用紙(別途作成予定)をご利用ください。また、払込取扱票の通信欄に「SOPHIA未来プレート募金」とご記入いただくことも可能です。

*ご芳名プレートの設置順序は、各区分ごとに先着順にて最前列より設置いたします。大変申し訳ございませんが、場所の指定はお受けできませんので、あらかじめご了承のほどお願い申し上げます。

*ご芳名プレートへの連名は1席につき2名までとさせていただきます。

このたびのソフィアタワー建設に際し、建築資材として使用した鉄骨を製造しているヤマネ鉄工建設株式会社様より300万円のご寄付を頂戴しました。ヤマネ鉄工建設株式会社様の鉄骨は、東京スカイツリーや六本木ヒルズ、東京ミッドタウンをはじめ、名だたる建

2016年9月に、株式会社ソフィアキャンパスサポート様(※)小幡富志男代表取締役よりご寄付が集まりまし

2015年度に引き続き、本学学生のために継続してご支援いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

金祝燦燦会は、2012年1月に1960(昭和35)年の卒業生有志を中心に発足し、今では1956年以降の卒業生を含め約3000人の金祝



留学生を囲んで記念撮影

金祝燦燦会 主な活動

- 外国人留学生の日本語スピーチコンテスト(5月のオールソフィアフェスティバル)
- お国自慢日本語スピーチコンテストと地域社会との交流(11月の相師谷国際交流会館・地域祭トライアングルフェスタ)
- 金祝奨励金(奨学金)の授与(8月)
- 卒業50年後の金祝者が集い憩う「お休み処」の設営(春の総会、春秋の懇親会)

新たなご寄付「ヤマネ鉄工建設株式会社様」

多くの実績と信頼を集めておられます。また、専務取締役の竹山信夫様が上智大学の卒業生というご縁もあり、このたびのご支援が実現しました。

「継続は「未来」なり」

設立5周年 金祝燦燦会 外国人留学生のために

員で構成されていますが、今年で設立5周年を迎えました。その活動は外国人留学生の支援を中心に本学の発展のためにご尽力いただいております(左下表)。

金祝燦燦会からは、さまざまな活動を展開している「金祝奨励金」も、5月のASF(オールソフィアフェスティバル)と11月に行われる2つの日本語スピーチコンテストは、外国人留学生にとって日本で学んだこと、経験したことを日本語で披露できる機会として好評を博しています。また「金祝奨励金」は、財政面から学生を支援する奨学金として、物価の高い日本

での生活を安心して送るよう心強いご支援として喜ばれています。支援を受けた外国人留学生には、本学の教育精神である「他者のために、他者とともに」の意味を、ソフィアの精神として帰国後も語り継ぎ実践していただけることを期待しています。

2000万円のご寄付を頂戴いたしました。使途としては、「叡智が世界をつなぐ奨学金基金」、「イエズス会教育推進センター基金」、「障がい学生支援のための機器購入」、「課外活動団体支援」等、幅広い使途を目的としており、本年3月に卒業・修了された卒業生への記念品代としてもご寄付の一部を活用させていただきました。

2015年度に引き続き、本学学生のために継続してご支援いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

支援にあらためて御礼を申し上げます。4年目の未来の一助となるべく努力してまいります。引き続き皆さまのご理解・

ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

※株式会社ソフィアキャンパスサポート

学校法人上智学院が2013年7月31日に公表した「ランド・レイアウト20・0」の財政計画(分野別計画)の一つとして、大学の教育研究や学生サービスの向上に財

務面及び業務面で貢献することを目的に2015年2月2日に設立された事業会社。

テイヤール・ド・シャルダン奨学金

4人の受賞者が決定

3月21日、2号館5階学生食堂にて理工学部主催の「テイヤール・ド・シャルダン奨学金授与式」が催されました。

2016年度は「インテグラル・エコロジー(注)と私の研究」をテーマに懸賞論文を募り、厳しい選考を経て4人の受賞者へ賞状が授与されました。今回金賞を受賞された地球環境学研究所地球環境学専攻国際環境コースのHALLE IAIN MATTHEWさん、北原隆メモリアル賞を受賞された哲学研究科哲学専攻の熊崎愛さんより喜びの声を寄せられましたのでご紹介いたします。

なお、各受賞者の論文は理工学部・理工学研究科ウェブサイトにて公開中です。www.st.sophia.ac.jp

■金賞受賞 HALLE IAIN MATTHEWさん



私は自らの経歴を変えようと、上智大学へ学び

にきました。私はロンドンにある医療コミュニケーション事業の会社で数年間働いて、環境、特に環境保全に強く興味を持ち、これらを学ぶため一度大学へ戻りたいと願うようになりました。上智大学で学べる機会を得たことにより、私はで永続的かつ自らの発育環境を作り出す景観を限られた人間だけで管理するという非常にスケールの大きな保全活動です。この保全活動が、世界規模で危惧されている生物多様性の喪失にとって重要な手助けと成りうるかなりしました。

今回、この奨学金をいただいたことを大変誇りに思っています。この受賞は、これから学位論文を完成させるための大変大きなモチベーションになりました。一度学生に戻り、上智大

を調査していますが、自分分が詳しいと思っっている分野を違う視点から考えさせられるという意味で、今回のテイヤール・ド・シャルダン奨学金懸賞論文への執筆は、私の研究にとっても有益なものとなりました。今回の論文執筆は、自分の研究分野をより深く学びましたし、またもっと哲学的に考察する機会にもなりました。

私は古代ギリシア哲学を専門に、現在は「エンペドクレス」という自然学者の宇宙論や自然に関する議論の解釈について

研究しています。今回、「テイヤール・ド・シャルダン奨学金」の「北原隆メモリアル賞」に採用していただき、大変光栄に思います。この懸賞論文に取り組んだことで、科学や科学技術が大きな影響を与える今日の社会において、いわゆる文理の垣根を越えて社会問題や環境問題に立ち向かう必要があること、そしてそこに現代における哲学の役割があることに気付きました。さらにこうした賞をいただいたことで、研究者の卵として身の引き締まる思いが致しました。今後はこの受賞を励みに、本当の意味で社会、人類、そして地球

のために研究ができれば、研究ができて参ります。

北原隆メモリアル賞 北原名譽教授の遺徳を偲び、優秀な後輩たちの役に立つことを通し北原名譽教授に恩返しをしたという、教員としての卒業生たちのグループ「二日会」によって、創立100周年記念事業資金を通じ2008年度に創設。受賞者若干名に賞状、賞金5万円が授与される。

テイヤール・ド・シャルダン奨学金 彼の理想に共鳴したベルギーの篤志家のご好意により、(旧)上智大学生命科学研究科の北原名譽教授を通して上智大学理工学部へ授与されたもので、例年、6月下旬にテイマが示され、12月はじめを締め切りとして大学院学生(理工学研究科以外の研究科学生も可)を対象とする懸賞論文募集が行われ、金賞1人(30万円)、銀賞1人(20万円)、銅賞2人(各10万円)考えです。

を調査していますが、自分分が詳しいと思っっている分野を違う視点から考えさせられるという意味で、今回のテイヤール・ド・シャルダン奨学金懸賞論文への執筆は、私の研究にとっても有益なものとなりました。今回の論文執筆は、自分の研究分野をより深く学びましたし、またもっと哲学的に考察する機会にもなりました。

私は現代における哲学を専門に、現在は「エンペドクレス」という自然学者の宇宙論や自然に関する議論の解釈について

研究しています。今回、「テイヤール・ド・シャルダン奨学金」の「北原隆メモリアル賞」に採用していただき、大変光栄に思います。この懸賞論文に取り組んだことで、科学や科学技術が大きな影響を与える今日の社会において、いわゆる文理の垣根を越えて社会問題や環境問題に立ち向かう必要があること、そしてそこに現代における哲学の役割があることに気付きました。さらにこうした賞をいただいたことで、研究者の卵として身の引き締まる思いが致しました。今後はこの受賞を励みに、本当の意味で社会、人類、そして地球

のために研究ができれば、研究ができて参ります。

北原隆メモリアル賞 北原名譽教授の遺徳を偲び、優秀な後輩たちの役に立つことを通し北原名譽教授に恩返しをしたという、教員としての卒業生たちのグループ「二日会」によって、創立100周年記念事業資金を通じ2008年度に創設。受賞者若干名に賞状、賞金5万円が授与される。

テイヤール・ド・シャルダン奨学金 彼の理想に共鳴したベルギーの篤志家のご好意により、(旧)上智大学生命科学研究科の北原名譽教授を通して上智大学理工学部へ授与されたもので、例年、6月下旬にテイマが示され、12月はじめを締め切りとして大学院学生(理工学研究科以外の研究科学生も可)を対象とする懸賞論文募集が行われ、金賞1人(30万円)、銀賞1人(20万円)、銅賞2人(各10万円)考えです。

テイヤール・ド・シャルダン奨学金 彼の理想に共鳴したベルギーの篤志家のご好意により、(旧)上智大学生命科学研究科の北原名譽教授を通して上智大学理工学部へ授与されたもので、例年、6月下旬にテイマが示され、12月はじめを締め切りとして大学院学生(理工学研究科以外の研究科学生も可)を対象とする懸賞論文募集が行われ、金賞1人(30万円)、銀賞1人(20万円)、銅賞2人(各10万円)考えです。

テイヤール・ド・シャルダン奨学金 彼の理想に共鳴したベルギーの篤志家のご好意により、(旧)上智大学生命科学研究科の北原名譽教授を通して上智大学理工学部へ授与されたもので、例年、6月下旬にテイマが示され、12月はじめを締め切りとして大学院学生(理工学研究科以外の研究科学生も可)を対象とする懸賞論文募集が行われ、金賞1人(30万円)、銀賞1人(20万円)、銅賞2人(各10万円)考えです。

上智大学後援会からのご支援

ご父母・保証人の学生支援



新しいマシンで気分一新された一部機器を除く大

ホフマンホールのトレーニングルーム機器更新

このトレーニングルームは、主に体育会団体連合会所属の学生が使用し

在学生の「ご父母・保証人」で構成される任意団体「上智大学後援会」。

あるホフマンホールのトレーニングルーム機器更新

部分を対象としたもので開始となった6号館(通称「ソフィアタワー」)1階の大教室舞台上、後援会より背景幕を寄贈いただきました。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

今回の機器更新は、2015年3月に別途更新された一部機器を除く大



後援会入会のご案内

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

このトレーニングルームは、主に体育会団体連合会所属の学生が使用し

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

部分を対象としたもので開始となった6号館(通称「ソフィアタワー」)1階の大教室舞台上、後援会より背景幕を寄贈いただきました。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

は、1982年(昭和57年)に竣工された10号館講堂へ背景幕を寄贈いただきましたが、今回はソフィアタワーの竣工を記念しての寄贈となります。

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

上智大学後援会では、2017年度もさまざまな行事を企画しています

世界に並び立つ大学への道

国内外大学の寄付事情

本学が世界に並び立つ大学となるべく、教育研究を推し進めていくには、安定した財政面の土台づくりが必要不可欠である。しかしながら、国内の大学は2018年問題として知られる少子化問題の影響で、大学の主な財源である学生生徒納付金も年々減り続けることが予想され、現在各大学がさまざまな手段を講じて資金調達に奔走している。そうした状況の中、「寄付」による資金調達が今注目を集めている。

日本の大学ではまだなじみのない資金調達方法であるが、海外とくにアメリカの大学では収入源として重要な位置にあり、中には国家予算にも迫る規模の寄付による基金を運用する大学もある。その代表的な例が米スタンフォード大学である。カリフォルニア州にあるスタンフォード大は、鉄道王であった創設者リランド・スタンフォードが、天逝した一人息子の名を残したいとの思いで、私財をなげうち創設した大学である。失意にあった夫リランドが妻に「カリフォルニア州の子供達は私たちの子供である」と、息子の代わりにも多くの子どもたちに最高の教育を与えようとしたのだ。スタンフォード大は今や世界有数のトップ大学へと成長し、2016年度に集めた寄付総額は9億5100万ドル(一千億円弱)にもおよぶ。

なぜこんなに寄付が集まるのか。もともと寄付文化が根付いていることが要因のひとつか。日本の家計資産残高が1700兆円以上とも言われる一方、東日本大震災後から2014年度までの寄付者率が、震災以前の率を上回ったまま大きく落ち込まずにいたことを考えると、潜在的な寄付者となりうる人は決して少なくないと思う。未来を牽引する他者のために、自分のできる範囲から寄付というかたちでの社会貢献が日本でも広まることを願っている。

(ソフィア連携室 江村知将)